

培った配達ノウハウを活かして新事業にも着手 地域と人を結び、次世代へとつないでいく

株式会社 タカナシ / ASA 流山南部・流山

千葉県流山市南流山 2-7-8

「朝日新聞」をはじめとする一般紙や専門紙、ブロック紙などを幅広く取り扱う新聞販売店『ASA 流山南部・流山』。地域密着で顧客のニーズに応える同店をタレントのダンカン氏が訪問。2020年に先代から事業を引き継いだ『タカナシ』の高梨社長に様々なお話を伺った。



interviewer
ダンカン



代表取締役 / 所長
高梨 善規



——はじめに高梨社長の歩みから。

山形県出身です。大学進学を機にこちらに来ることになったのですが、私立で学費も高いので、高校の野球部の監督が、「新聞奨学生なら学費を出してもらえからやってみないか」と。それで新聞販売店を経営している後輩がいるからと紹介してくれたのが、この店の先代だったんですよ。

——では4年間、新聞配達をしながら大学に通っておられたんですね。

ええ。おまけに先代に無理を言って大学でも野球を続けさせてもらっていたので、ほとんど寝る時間ありませんでした。当時は本当にきつくて、こんな仕事は二度とやりたくないと思っていたんですよ（笑）。それから1992年に故郷の山形で国体が開催されるにあたり、野球の強化選手に指定していただけるということでお話をいただいて、『東北パイオニア』に入社。国体では優勝することができ、その後も会社勤務の傍ら選手としてプレーに打ち込みました。そんな中、『朝日新聞』の本社から先代に、「経営ができる奨学生のOBはいないか」と連絡があったそうで、先代が私を推薦して下さいましたね。奨学生の時にはお世話になりましたらっしやでしたから、何かご恩返しできればと思って退社し、こちらに戻っ

てきたんです。

——お世話になった先代のため、新聞販売のお仕事に携わられるようになった。では現職に就かれた経緯とは。

1年ほど研修を受けて各地の販売店で店長を務めさせていただき、独立しました。その後、先代が引退されることになり、私に店を引き継いでもらえないかと打診があったんです。先代が引退されるのは寂しいですが、後継者に選んでいただいたことが光栄でしたから、即答しました。そうして2020年7月からこちらで所長をさせていただいています。

——先代は社長に全幅の信頼を寄せられたんですね。現在、従業員さんは何名いらっしゃるのでしょうか。

アルバイトやパートさんを含めて50名ほどの体制で、約5千部を配布しています。今はネットニュース全盛の時代。全国的に新聞を購読する人は減っていますが、ここ流山市は人口増加率が日本でもトップクラスのエリアでして、ありがたいことに私共はあまり影響を感じていません。

——先代から事業を継承されてから新たな取り組みもスタートされたとか。

ええ。軽自動車での宅配事業を始めました。ネット通販や運送会社からの荷物の配達ですが、お陰様で多くの支持をい

ただいてまして。新聞配達で培ったノウハウ、実績がありますからよりスムーズに配達を行うことができる点が好評いただいているようです。今後は新聞販売事業だけでなく、物流全般で地域社会に貢献していければと思っています。

——最後に、従業員さんや次世代を担う方々にメッセージをお願いします。

自分で考える力をつけて、考えたことを行動に移して行ってほしいと思っています。私も新聞配達を通して様々なことを学んだので、若い人たちにも何かを学んでもらえたら嬉しいですね。

(2020年12月取材)



「一時はプロ野球選手やノンプロ選手も目指しておられたという高梨社長。その夢は叶いませんでしたが、野球での縁がきっかけで新聞配達のお仕事や先代に出会われ、今につながっている。めぐり合わせを感じましたよ」
ダンカン・談